

エリア ウェブ

峡東教育事務所
 地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2737
 FAX 0553-20-2733

回覧・配布をお願いします。増す刷り配布はご自由にどうぞ。この情報紙は山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

うそ

「世界で一番あたたかい嘘」

最近、朝のニュースを観るのが恐ろしくなります。特に家族や子どもたちを巻き込んだ事件が多くて心が痛みます。

一日のスタートなのに、暗い気分になるのは私だけでしょうか。

私だけならともかく、子どもたちの目にどのように映っているのか。子どもたちの心にどのような影響を及ぼすのか、心配になります。

『ライフ・イズ・ビューティフル』という映画をご存じでしょうか。

'99年にアカデミー賞を3部門も受賞したロベルト・ベニーニ監督のイタリア映画です。

第2次世界大戦中、イタリア系ユダヤ人の家族が、強制収容所に連行されてしまいます。絶望と死の恐怖から息子を守ろうと、父親は大きな嘘をつきます。

それは、収容所の生活は、息子の大好きな戦車を得るためのゲームだと言うのです。父親は息子に、とにかく生き抜いて「得点」をあげれば、最後に戦車がもらえると説明します。息子は、父親の嘘のおかげで、収容所生活の恐怖を感じずに生き抜きます。

また、女性専用の収容所にいる妻に、命がけで励ましの放送をします。

こうした父親の涙ぐましい努力のおかげで、母子は無事に助け出され、息子はアメリカ軍の戦車をみて大喜びします。しかし、父親は息子の隠れ場所が見つからないようにするために、自分の命を投げ出した後だったのです。



「人生は すばらしい」。

収容所の明日をも知れぬ身の極限状態の中で、理不尽な運命に左右されながら、わが子にこの言葉を言えるでしょうか。

「子どもにだけは悲しい思いをさせたくない。」

「絶対生きてこの収容所を出る。」

そんな強い思いがあったからこそ、子どもや妻を守りきったのです。

そして、立派なのは子どもの前で決して悲しい顔、不安そうな顔、つらそうな顔を見せなかったことです。

それどころか、父親は楽しくて仕方がないというような顔をしていました。子どもは、そんな表情を見て、安心して生活することができたのです。

今、子どもたちを取り巻く状況は決して明るいものばかりではありません。暗いニュースが毎日のように家庭に入ってきます。大人だって、つらいことや悲しいことはあります。でも、せめて子どもの前では、明るく元気な顔をしていたいものです。そして、「人生は すばらしい。」と胸を張って言えるようになりたいものです。



峡東地区を訪ねて

山梨園芸高校「親子で楽しむ体験講座」 (地域の小学生を招いて)

～自分の夢に向かって目標を持って学ぶことの大切さ～

サツマイモの苗植 6月16日(土)



雲一つない晴天の中、サツマイモの苗植が行われました。

畝(うね)づくりだけでも大変です。

参加された親子のみなさんは、「ここも掘って。」「あと少し。」

などと声をかけ合いながら、気持ちのよい汗を流していました。

親子パン作り教室 6月30日(土)



かうまくいきません。毎年参加しているというベテランの親子も悪戦苦闘していました。

今回取材をしてみて、次のようなことを感じました。

親子で同じ体験をすることで、いっしょに感動したり、喜んだりすることの大切さ。

知識だけでなく「モノづくり」の技術を身につけることの大切さ。

自分の好きなことに興味を持ち、学

ぶことの大切さ。

パン作り指導担当の園芸高校の生徒さんから話を聞きました。

今は、3年生だけど、卒業したら東京の専門学校へ行って、パティシエの修行を本格的にしたい。

将来は洋食屋さんになることを目指している。時々、家族にクロワッサンやパイを作ってあげる。

将来は、お菓子屋さんになりたい。

河口湖の方から、バスで30分かけて登校しているけど、楽しい毎日を送っている。

たくさんの夢や目標を話してくれました。また、話を聞きながら、専門的な知識の深さや、技術の高さなどにも驚かされました。

サツマイモの苗植の取材から帰ろうとすると、一人の生徒がトラクターに乗ってブドウ畑を耕していました。すると先生がこんな話をしてくれました。

「あの子は、畑が好きでしてね。毎週休みになっても、ああして畑の世話をしに来るんですよ。」

暑い中、黙々と畑を耕している彼の姿は、自分の夢に向かってコツコツと努力することの大切さを教えてくれているようでした。



ことぶき勸学院（東山梨・東八代）

「一日研修（信州の鎌倉塩田平を訪ねて）」

ことぶき勸学院の皆さんが、一日研修として、長野県の上田盆地を訪ねました。東山梨学園は6月27日、東八代学園は29日に実施しました。それぞれ「生島足島神社」「無言館」「常楽寺」「安楽寺」「北向観音堂」と巡って、おみやげもたくさん買って、元気いっぱい山梨へ帰ってきました。



《東山梨1年生の皆さん》



《東八代1年生の皆さん》

「家庭科ボランティア（春日居小学校）」

数年前から勸学院の皆さんが、春日居小学校で家庭科のボランティア活動を行っています。

はじめは、「教えることなんて難しくてできないよ。」と、躊躇（ちゅうちょ）されていた方もいらっやったそうです。でも、子どもたちの笑顔や授業中の真剣な表情を見ているうちに、ボランティア活動へ行くのが楽しみになってきたそうです。

やはり、「人から頼りにされる」「必要とされる」ことは、やりがいや、生きがいにつながるのだなあ、とつくづく感じました。



《裁縫の授業で、並縫いや玉どめなどの指導をしてくださる勸学院の皆さん》

「早寝・早起き・朝ごはん」パート3

～ 親の生活が、子どもに影響を与えている～

朝の子どもたちは、いろいろな表情を見せます。

- ・まだ半分夢の中にいるような子
- ・朝からあくびばかりしている子
- ・イライラして落ち着かない子
- ・やたらと大声で騒いでいる子

大人でもそうですが、朝からすっきりとしている人は少ないものです。

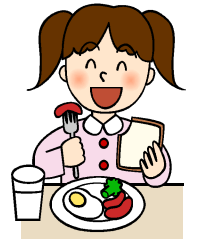
ある眠そうにしている子に理由を聞くと、「お母さんたちと、夜 12 時頃までテレビを見ていた。」と言うのです。

つまり、大人の生活が子どもの生活に影響していることが少なくないのです。

先日も、夜 10 時をかなり過ぎた頃、ある女性のグループが居酒屋にいまし

た。大きな声でおしゃべりをして、楽しそうに笑っていました。でも、そばには 3、4 歳ぐらいの子たちが店のフロアで遊んでいたのです。お母さんたちは、時々子どもたちに目をやりますが、話に夢中です。眠そうにしている子もいれば、退屈してぐずっている子もいるのに。

「わが家流」もいいと思いますが、せめて子どもが小さい頃の数年は「子ども流」も大切にしたいものです。



～ 朝の貴重な時間を 30 分も増やせます～

「30 分早く起きればいい」と言うのは簡単で、それがなかなか難しいものです。朝の 10 分と昼間の 10 分は同じ長さとは到底思えません。「そんな貴重な 10 分なのに 30 分早く起きるなんてとんでもない。」と感じていらっしゃる方は多いと思います。

早起きをするためには、やはり早寝をする必要があります。みんなで 30 分早く寝てみませんか。

すると、こんな言葉が少なくなると思えます。

「早く起きなさい！」

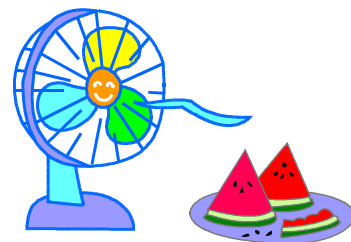
「ちゃんと歯を磨いて！」

「しっかり服を着て！」

この「早く・ちゃんと・しっかり」の言葉のシャワーを、毎朝子どもたちは浴びて学校へ行くのです。そして学校へ着いた途端にグッタリしてしまうのです。

きっと 30 分早く起きれば、手作りの朝食をみんなで食べて、話をして、笑顔で「行ってきまーす。」「行ってらっしーい。」

こんなに簡単にはいかないと思いますが、みんなに少しゆとりがでることは事実だと思います。



でも、もう少し早く起きたら、こんなこともできるかもしれません。

犬の散歩、ファミリーウォーキング
花壇や観葉植物などの手入れ

テレビ体操(NHK教育6:30~6:40)

英会話(NHK教育6:40~7:00ごろ)

朝の勉強・読書・趣味など

とてもこんなことできるはずはない、と諦めることは簡単です。

「朝の貴重な時間」。

逆に考えればその貴重な時間を 30 分も増やすことができるのです。もちろん 60 分増やしてもいいわけですが。要は自分次第。

この夏、家族みんなで挑戦してみたいかがでしょうか？